

## 税金とぼくたちの暮らし

厚沢部町立厚沢部中学校 三年 朝倉 煌士郎

「なんでこんなに税金を取られるの？」

ある日、働くお父さんが何気なくつぶやいた。家計簿をつけながらため息をつく母の様子も見て、ぼくは初めて「税金ってそんなに大変なものなのかな」と思った。ニュースでは「消費税が上がるかもしれない」と言っていたし、スーパーでの買い物でも「なんと十%も取られるの？」と感じたことがある。そんなある日、社会の授業で「税金の役割」について学んだ。

そこには、税金によつていろいろなサービスが成り立つていると書かれていた。たとえば、ぼくたちが毎日通っている学校。教科書が無料で配られるのも、冷暖房が使えるのも、先生たちの給料が払われているのも、すべて税金のおかげだということを知った。さらに、給食費はかかっていても、その食材の一部や調理員さんの人件費なども税金でまかなわれているらしい。ほかにも、救急車や消防車がすぐに来てくれるのこと、道路が整備されていること、公園がきれいに保たれていることも、実は税金のおかげだ。「税金って、ぼくたちの毎日の安全や学びを支えてくれているんだな」と思うようになつた。誰もが平等に、安心して暮らせるように使われている税金。それは人としての基本的な権利つまり、「人権」を守るためのものだということも分かった。

けれど一方で、家族の生活を見ていると、税金の重さがのしかかっていることも実感する。給料から引かれる所得税や住民税、毎日の買い物の消費税。電気代やガソリン代にもたくさん税金が含まれている。物価が上がつていてる今の時代、税金の負担が減つたら、もつと生活が楽になるのだと感じる。もちろん、税金が必要なのはわかっている。でも、たとえば消費税が10%から8%に下がるだけでも、食費や日用品の負担はずいぶん軽くなるはずだ。特に子育て世帯や年金で暮らす高齢者にとって、ほんの少しの減税でも、大きな助けになると思う。ぼくは、税金を「なくしてほしい」とは思っていない。むしろ、税金があることで、ぼくたちの暮らしを守らされていることをもっと多くの人に知つてほしい。ただ、生活が苦しくなつてしまふほど税金が重くなつてしまふのは、本末転倒ではないかと思うのだ。これから大人になつて働くようになつたら、ぼくも税金を払う立場になる。そのときに「税金は必要だけど、ちゃんと使われている」と信じられる社会であつてほしい。そして、少しでもみんなが暮らしやすいように、使い方や金額のバランスを考えてくれる世の中であつてほしい。税金は、ぼくたちの暮らしを支える大切な仕組み。でも、そこに「思いやり」や「助け合い」の気持ちがもつと込められたら、もつと人にやさしい社会になるんじやないかと、ぼくは思つてゐる。